



小梅枝 祐二 さん

私は、中村自治会ででんぷん用の芋、青果用の芋とかぼちゃを作っていますが皆さんと違い兼業農家として農業を行っています。現在は耕作放棄地を借りて土地を耕し、でんぷん用の芋を植えています。2年前から(株)美農里という会社を立ち上げ、さつまいもを販売していますが、まだまだ作り方からPRを含め勉強中です。色々な作物にも今後取り組んでいきたいと思っています。

六反田自治会でお茶を生産しています。私達も城下製茶として会社経営で農業を行っています。現在会社で25町歩ほど深蒸し茶を生産しており、今後規模拡大をしていきたいと思っていますが販売ルートの確保やPR活動なども同時に行っていかなければならないと感じています。昨年から東京で「100円茶屋」に参加し、お茶の試飲や販売・PR活動を行い徐々に固定客も付いてきています。お茶は急須で入れて飲んで頂いた方がおいしいと思いますが、これからは粉末にしたり違った形でお茶を楽しんでもらうことも大事だと感じました。



城下 浩一 さん

老崎： 色々な話を伺ってきましたが、品目拡大や面積拡大を単に行っても、販売ルート（出口）がなければどれだけ規模拡大（入口）を行ってもなかなかうまくいかないのではないのでしょうか。これからの農業はいいものを生産しながら、販売ルートも見つけて行かなければならないと思います。ちょうどいいタイミングで加工及び販売ルート確保というキーワードが出て来ましたので、次の政策目標「農産物・加工品等の販売促進のための協議会設立」について町長の方からお願いいたします。

町長： 先ほど小梅枝さんや城下さんからもPR活動が大事という意見を頂きましたが、錦江町としても町内の美味しい物を発見発掘し、アピールできるように昨年の6月に元気ファクトリー（町内で元気のある方々を中心に農家と町と一緒に美味しく物をPRできる組織）を立ち上げました。昨年はその方々を中心に協力をもらいながら、紫原との交流を行ってきました。その中で見えてきた課題や要望を今年度は活かしながら、販売ルートの確保、農産物・加工品の販売促進につなげて行きたいと思っています。



濱田 隆介さん

私は、昇陽自治会ですが花瀬地区でブドウとマンゴー、ブルーベリーを生産しています。現在はクラッシュブドウとしてブドウの販売や、国の6次産業認定をもらいマンゴーソースなどを開発しています。販売ルート確保がなかなかうまく軌道に乗らないため、生産拡大に繋がっていない状況です。先ほど町長からありました元気ファクトリーに私も加わり、購買者の顔が見える状態で販売させていただきました。少しずつですが販売ルート確保のいいきっかけになったと思います。

私は、神川上自治会で葉タバコと加工用大根、畜産（生産牛）を中心にしています。現在は葉タバコと加工用大根を生産していますが、専門が畜産なので、今後は畜産一本でできればと思っています。若手の畜産農家が増えてきているので、色々なイベントに参加して行きたいと考えています。



小園 啓一郎 さん

濱田： たしか、福岡県のみやこ町では有害鳥獣施設がありイノシシ肉などを加工する施設がある。錦江町でも牛やイノシシなどを解体出来る施設が出来れば特産として売り出せるのではないか。肉や魚など錦江町産として扱えるようになれば、農産物と合わせて6次産業化や農家レストランとしても開けていくのではないか。